

## 1. コスト削減のための妥当な託送料金算定手法

視点①: 過去の実績値や電力会社平均値に基づく査定原価水準は適切か？

⇒ 下記2. に基づき効率化された実績値や同等・類似財の市場価格等の適用、ヤードスティック査定の拡充、事後的検証による原価構成等の見直しの反映など

視点②: 原価と実績値に係る事後的検証を徹底すべきではないか？

⇒ フォローアップにおける査定上の原価構成と実態との整合性等のチェックなど

視点③: 託送料金認可後も電力会社における継続的なコスト削減努力が確保されるべきではないか？

⇒ 自律的なコスト削減を継続的に促すためのより実効的な効率化インセンティブ付与の在り方など

視点④: コスト削減の成果が消費者に還元されるべきではないか？

⇒ 達成された効率化分が適切に託送料金に反映される方策(料金変更認可申請命令の発動基準の見直し等)

## 2. 資材・役務調達コスト等に係る更なる効率化の手法

視点⑤: 徹底した調達コスト削減につながる更なる効率的・競争的な調達制度はあるか？

⇒ 調達制度における競争性の徹底、仕様・設計の汎用化・標準化の推進、取引先の拡大等による、現状の効率化水準(原則10%相当)を超えるコスト削減余地

## 3. その他

(委員の問題意識に応じて適宜追加)